

【2021年の事業計画】

【事業計画】

「コロナリテラシーアッププログラム（全国研修会）」を活用し、リスクの適切な予防対処法を会員に浸透させ、現場力を向上させながら、JLA（はラクロスの活動の場を会員・社会に提供し続けていきます。またメディア戦略を活用しラクロスブランドを内外にPRし、新歓での新人の獲得、ジュニア普及で競技人口の拡充を着実に進めていく予定です。組織体制面では、公益社団法人化への正式申請を内閣府に行います。JLAは、2018年に財務・ガバナンスの健全性を高めるために一般社団法人化しました。日本代表組成、競技ルール統括等独占的プラットフォームでもあるJLAは、会員組織を維持しながら、より社会に開かれた公器を目指します。これはWL(国際ラクロス連盟)の要請でもあるJOC(日本オリンピック協会)への加盟、収入の多様化(補助金収入)に対応するものです。「枠を超えていく」VISIONを実現しつつ、組織のガバナンスを引き上げていきます。尚、主力重点事業の計画は以下の通りです。

- 大会運営：全日本選手権の形式見直しに伴い、大学/クラブ両選手権の価値を創造し、更なる運営力の強化を目指します。世界大会日本招致も視野に、安全な会場計画、サービス、ラクロスの魅力の伝え方を有料試合で開発します。また、新フォーマット Sixes（6on6/ロクロク）導入準備も行います。
- マーケティング：持続可能な日本ラクロスの発展を目標として、未来の日本ラクロスへの投資原資を得るためのパートナーシップを、様々な企業やコミュニティと戦略的に取り組みます。①マーケティング部門強化、②ラクロス独自のブランド価値の創出、③更なるブランド価値向上具体的施策を継続的に推進します。
- 広報：情報発信の迅速性、正確性、網羅性、品質の向上を活動方針とし、ラクロス広報の基盤となる体制作りを強化します。全国において地域ごとの情報発信体制を整備し、更なるコミュニティの活性化を狙います。代表活動が本格化する2022年以降の情報発信を拡充させるため、体制強化・ガイドライン整備を進めます。
- 安全対策：ジュニアから代表まで、全てのレベルで安全に安心して高品質のラクロスを楽しめるよう安全対策を推進します。科学的根拠に基づいて情報を整理し、Medical Time Outの導入、より効果的なSG体制の効率化を図り、セミナー開催で啓発活動を行います。アンチドーピング委員会を設立し、代表選手のみならず、会員全体に対してもその重要性を教育啓蒙し、JADA加盟申請も行います。
- 普及：強化部/JLAcademy及び審判部と連携し、ジュニア標準ルールに準拠した指導者資格・審判資格の各体系を確立し、ジュニア大会の継続・拡大と共に各地区のラクロス体験会を支援します。中高連の準加盟化、ジュニアラクロス連盟の立ち上げにも取り組み、18歳以下世代へのラクロス普及を推進します。
- 日本代表：女子代表活動、女子全国強化指定活動、男子U20代表活動を再開し、2022年の世界大会に向けトップ層強化を進めるとともに、マーケティング委員会と協業してラクロスの価値最大化に取り組みます。
- 国際：中長期的に海外遠征者数を増やし競技レベル向上と時代に合わせた国際交流を再構築します。また、JLA独自の視点でアジアラクロスの発展を支援し、国際親善試合の位置付けの再考とリニューアルも検討します。WL主催の2025女子・2026男子世界大会日本招致を見据え、体制構築とプロフェッショナル人材育成も行います。

【予算概況】

事業活動の緩やかな正常化、経費構造改革の進展を前提に3年ぶりの収支均衡(最終損益ゼロ)予算を策定しました。収入は前年実績比+46%の341百万円(2019実績比▲31%)、内、会費収入は同+6%の150百万円(同▲29%)、その他収入は同+108%の191百万円(同▲32%)と、2019年決算の半値戻しの水準です。経費も、前年実績比+26%の341百万円(2019実績比▲35%)と、家賃・支払保険料等の固定費を圧縮しつつ、公益法人化対応での戦略人員の追加等を実施します。JLAは、2018年法人化後から経営基盤強化を進め、オンライン化を軸とした効率化と戦略人材補強で、固定費をネット約44百万円削減し、選択と集中を行いながら財務体質の改善を行ってきました。なお、フレッシュマンズキャンプ予算は約100百万円あり、開催可否で収支が同額変動します。

2021年度 事業計画書

2021年5月 一般社団法人日本ラクロス協会 理事会

事業	目的	概要
マーケティング	ラクロス価値向上のための戦略策定と推進	継続的で持続可能な日本ラクロスの発展を目標として、未来の日本ラクロスへの投資原資を得るためのパートナーシップを、様々な企業やコミュニティと戦略的に取り組みます。2020年に、①コロナ下新入生勧誘クラウドファンディング、②日本代表ブランドパートナーシップを締結、③Lacrosse As a Life新コンセプトのスタート、④加盟チームのユニホームスポンサリングの解禁、⑤JLA成長戦略発表会ウェビナー開催、⑥公式WEB・SNS・大手メディア発信の拡充等に取り組みました。2021年は、①マーケティング部門強化、②ラクロス独自のブランド価値の創出、③更なるブランド価値向上具体的施策を継続的に推進していく予定です。
安全対策	医科学委員会・アンチドーピング準備委員会の定着	ジュニアから日本代表まで、全てのレベルで安全に安心して高品質のラクロスを楽しめるよう安全対策を推進します。2020年に、医科学セミナーを開催し、コロナ下の活動についての啓蒙活動を実施しました。2021年は、科学的根拠に基づいて情報を整理し、Medical Time Outの導入を見据えた各種大会運営について検討を重ねていきます。また、より効果的な安全管理が可能となるようSG体制の効率化を図り、将来のビジョンを構築していくとともに、セミナー開催によって安全対策に対する啓発活動を行っていく予定です。更に、理事会直下の諮問委員会としてアンチドーピング委員会を設立し、日本代表選手のみならず、会員全体に対してもアンチドーピングの重要性を教育啓蒙し、JADA加盟申請も行います。
大会運営	コロナ対策を高度化した全国大会の運営力強化	全日本選手権の形式見直しに伴い、大学選手権及びクラブ選手権共に両選手権大会ならではの価値を創造し、更なる運営力の強化を目指します。2020年に、コロナ対策を踏まえた特別大会を全国で展開し、安全な環境での大会運営の基盤を整備することができました。2021年は、全ての選手権大会を一過性のプロジェクトではなく、将来日本招致を予定している世界大会等の運営も視野に入れ、有料試合のスポーツ大会として、安全な会場計画、会場サービス、ラクロスの魅力の伝え方の開発を実現します。また、新たなフォーマットであるSixes (6on6/ロクロク) 新競技の導入準備をもスタートする予定です。
普及	ジュニアへの更なる普及	強化部/JLAcademy及び審判部と連携し、ジュニア標準ルールに準拠した指導者資格・審判資格の各体系を確立していきます。また、ジュニア大会の継続・拡大と共に各地区のラクロス体験会を支援します。2020年は主たる活動が全面的に停止していましたが、2021年は上記に加え、中高連の準加盟化、ジュニアラクロス連盟の立ち上げにも取り組み、協会として18歳以下世代へのラクロス普及を推進していきます。

事業	目的	概要
広報	WEB事業の発信強化	情報発信の迅速性、正確性、網羅性、品質の向上を活動方針とし、ラクロス広報の基盤となる体制作りを強化します。2020年のコロナ下では、公式WEB・SNS情報発信の強化、特別大会のYouTube/SNSオンラインライブ配信の拡充し、ラクロスの認知度向上に貢献することができました。2021年は、全国において地域ごとの情報発信体制を整備し、更なるコミュニティの活性化を狙います。また、日本代表活動が本格化する2022年以降の情報発信を拡充させるため、体制強化・ガイドライン整備を進める方針です。
ガバナンス	公益法人化	情報共有基盤の構築と堅確な経理事務・ガバナンス体制の更なる高度化を図り、公益法人に合致する組織を構築します。2020年は、EY(新日本監査法人)と専門家の助言をベースに公益法人化の主たる論点の検討を進めました。2021年は、内閣府へ正式申請を行い、現行事業を総点検しつつ、各種規程の策定、経理能力の向上、組織インフラの更なる効率化、法務コンプライアンスと人事運営の強化を推進します。また、外部関連団体との幅広い連携や協業を推進し、柔軟で独自性のある組織文化を創っていきます。
戦略企画	中長期事業計画の策定	理念とVISIONをベースに、持続可能な中長期事業戦略を策定します。今後5～10年スパンの外部環境の仮説をベースに各事業分野の戦略を立案し、収入源の多様化・拡張性のある組織基盤の構築を進めていきます。構造改革による一定の効果を踏まえ、守りを固めながら、選択と集中を意識しつつ各事業の資源配賦を定めた上で、成長戦略を策定し、先行投資を実行していきます。
日本代表	次回世界大会に向けた4年サイクル強化プランの継続推進	コロナ禍で一時中断となっていた女子代表活動、女子全国強化指定活動、男子U20代表活動を再開し、2022年の世界大会に向けトップ層強化を進めるとともに、マーケティング委員会と協業してラクロスの価値最大化に取り組みます。
国際	国際交流事業の強化	中長期的に海外遠征者数を増やし競技レベル向上と時代に合わせた国際交流を再構築します。また、JLA独自の視点でアジアラクロスの発展を支援します。国際親善試合の位置付けの再考とリニューアルも検討します。WL(国際ラクロス連盟)主催の2025女子・2026男子ワールドチャンピオンシップの日本招致を見据え、体制の構築とプロフェッショナル人材の育成も行います。